

「自転車利用に関する共通ルール」

■ 自転車利用に関する共通ルールを作成するにあたり、現状を考えました。

近年、自転車事故が増えたとニュースでよく聞きます。

(警察庁が10年前との比較で、自転車と歩行者の事故は、3.7倍。自転車同士は、4倍。)

3年前に道路交通法が改定されてからも自転車事故が増え続けていると新聞で読みます。

また、スポーツ自転車が增多、スピードが危ないという意見も聞きます。

しかし、街中を走っている自転車のうち7割くらいを一般自転車(いわゆるママチャリ)が占めているのが現状です。

<道路交通法上、自転車は軽車両>という意識がないまま、履物でいうとサンダル代わり、というような無自覚・無責任な自転車の乗り方に事故となる原因があると思います。

車種(スポーツバイク、ママチャリ、子供車など)を問わず、共通した意識を持って通行することが必要であり、その徹底が急がれていると思います。

事故を少なくするため、個人の意識を高めるために、新しくもあり、しかし当たり前のルールが必要だと思っています。

■ 現状をふまえ、考えたルールです。

必要なルールはたくさんあると思います。それを並べても一度に把握して、実行するのは難しいと思います。優先順位として、まずは大きな2つのルールを軸に、実行していくのが効果的だと思います。

【2大ルール】

◎左側走行を守ろう。

<車道を走るとき、自転車道を走るとき、歩道を走らせてもらうとき、すべて左側を走ろう。>

自転車事故の多くは出会い頭の事故。右側を通る自転車があるから事故は起こりやすいのです。

ヨーロッパの中でも自転車文化が定着している国オランダ、ドイツ、スイスなどでは、車と同じ右側の一方です。



photo by Makiko Takashima

<アムステルダムの街中・自転車道では右側の一方通行で通行>

特にオランダの人口密度の高さは東京のそれに近く、アムステルダム中心地は道の幅も広くありません。

そういった環境の中で、一方通行に統一することにより、まずは安全を確保した方がよいと思います。

私が調布市内の歩道を歩いているとき、自転車が前から後ろから来るので安心して歩けません。

◎手信号をしよう

<右へ曲がる、左へ曲がる。止まる。手で合図することで周りの人へ伝えよう。>

曲がる前に曲がる方へ、手を伸ばす。片手しか使えないときは腕をヒジで折り、逆の方を差します。

止まるは、手を斜め下に出し、手のひらを後ろに見せます。

市内では年配の方が手信号をするのを時々見かけるので、習慣は残っていると思います。

自転車に乗ること＝軽車両を運転するということの意識を高めると共に周りの人に対して行く方向を示すためでもあります。

オランダ・アムステルダムでは一般自転車の1～2割の人が手信号をしていました。

日本でもスポーツ自転車では、仲間と走行するときのマナーとなっています。

自転車と自転車、自転車と歩行者、コミュニケーションの意思疎通が大切だと思います。

【細かなルール】

- ・歩道を走らせてもらう時、人の近くを通る際は減速しよう。
- ・信号、一旦停止を守ろう。
- ・夕方～夜間は、ライトを点けよう。前方は白、後方は赤。
- ・交差点内の横断は自転車横断帯を渡ろう。

【禁止ルール】

- ・逆走。歩道でも自転車道でも右側通行は禁止する。
- ・車道と歩道を行き来する空いたところを縫うような走行。
- ・音楽を聴きながら（ヘッドホンなど）の走行。
- ・携帯電話の使用しながらの走行。
- ・雨の日の傘差し通行。自転車に傘を取り付けることの禁止。雨具を着よう。

■意見のまとめ

調布市内の自転車道・歩道がありながらも、自転車の双方向通行が可能というのは、危険だと思います。ヨーロッパで自転車に乗ったことがある人、また日本でも車の運転免許を持っている人であれば、一方は当たり前なことだと思います。

今まで日本では、なかったことですが、この機会に一方通行の実現が可能になればと思います。それは、大きな改革です。

また、手信号は昔からあるものです。

現在、スポーツ自転車が 많아 なったと言われる中、ロードバイクに乗っている人は手信号をすることが定着しつつあります。

このタイミングにもう一度見直し、市民の共通のルールになればと思います。

まずは、この2つの大きなルールを実現することで、一人ひとりの意識が高められ、事故を少なくできると考えます。

このルールが市民に広まり、調布市内でマナーとなればと思います。

そして周辺の市、さらには東京で、日本全体で、当たり前のルールになることを願っています。